

平成30年度 病害虫発生予察情報

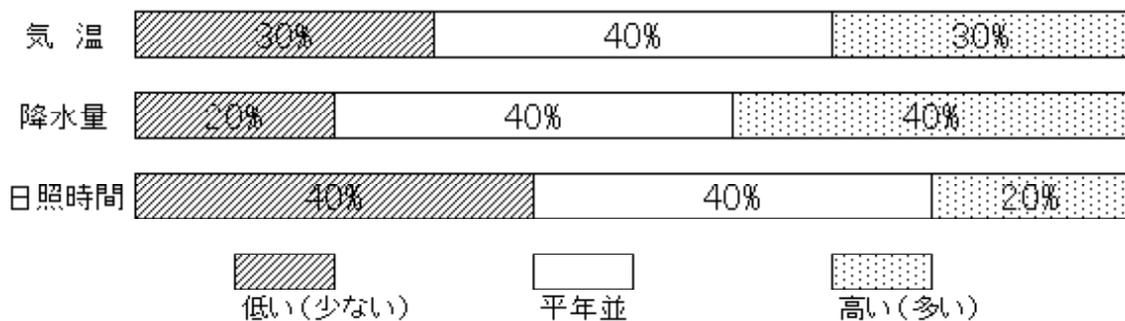
発生予報第7号（9月）

平成30年9月6日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	穂いもち	少ない		
		紋枯病	平年並		
		白葉枯病	少ない		
		ツマグロヨコバイ	やや少ない		
		トビイロウンカ	やや少ない		
		斑点米カメムシ類	平年並み～やや多い		
		果樹	ダイズ ナシ	ハスモンヨトウ	やや多い
				黒斑病	やや多い
				シンクイムシ類	平年並
				ハダニ類	やや少ない
野菜	カキ アブラナ科野菜	カメムシ類	多い～やや多い		
		うどんこ病	平年並		
		カキミガ	平年並		
		カメムシ類	多い～やや多い		
		アブラムシ類	平年並		
		コナガ	少ない		
		アオムシ	やや少ない		
		ハスモンヨトウ	やや多い		

中国地方1か月予報(9月1日～9月30日・広島地方气象台8月30日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

①葉いもちの発生は少ない。

②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 少ない

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年に比べて少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①8月28日～9月1日の巡回調査では、捕獲虫数9.0頭/50株（平年34.1頭）、発生ほ場率45.2%（平年68.7%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②8月第5半旬までの予察灯への総誘殺数は167頭（平年329.8頭）と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①8月28日～9月1日の巡回調査では、捕獲虫数0頭/50株（平年2.6頭）、発生ほ場率0%（平年29.1%）で平年に比べてやや少ない。
- ②県内ほ場において7月第4半旬に発生を認めている。
- ③8月第5半旬までの予察灯への総誘殺数は0頭（平年2.6頭）と平年並みである。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①8月28日～9月1日の巡回調査では、捕獲虫数2.1頭/20回振り（平年2.2頭）、発生ほ場率51.2%（平年42.3%）で全般の発生量は平年並みであるが、一部ほ場でクモヘリカメムシの密度が高い。
- ②斑点米カメムシ類の優占種はクモヘリカメムシとアカスジカスミカメである。
- ③8月第5半旬までの予察灯でのアカスジカスミカメの誘殺数は244頭（平年219.9頭）で平年に比べてやや多い。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①巡回調査での本種幼虫による白変か所数は0.8か所/a（平年0.4か所）、発生ほ場率は40.0%（平年21.5%）と平年に比べやや多い。
- ②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で483頭（平年645.5頭）、県西部で617頭（平年993.3頭）と平年よりやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや抑制的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は20.5%（平年14.2%）であり、平年と比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容
 発生地方 ナシ栽培地帯
 発生時期 平年並
 発生量 平年並

予報の根拠

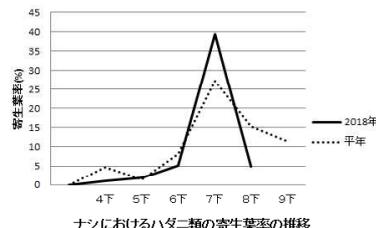
- ① 予察ほ場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期、誘殺数ともに平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容
 発生地方 ナシ栽培地帯
 発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では、寄生葉率は5.0%（平年15.3%）で平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



(4) カメムシ類（平成30年度注意報第1号参照）

予報内容
 発生地方 ナシ栽培地帯
 発生量 多い～やや多い

予報の根拠

- ① 予察ほ場（出雲市）の8月第1半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は4,198頭（平年717.5頭）と平年に比べて多い。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや抑制的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容
 発生地方 カキ栽培地帯
 発生量 平年並

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は7.2%（平年11.0%）であり、平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容
 発生地方 カキ栽培地帯
 発生量 平年並

予報の根拠

- ① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類（平成30年度注意報第1号参照）

予報内容
 発生地方 カキ栽培地帯
 発生量 多い～やや多い

予報の根拠

- ① 予察ほ場（出雲市）の8月第1半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は4,198頭（平年717.5頭）と平年に比べて多い。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや抑制的である。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並

予報の根拠

- ①8月末の巡回調査では発生ほ場率は76.9%（平成65.1%）、寄生株率は23.3%（平成14.0%）であり、平成並みである。
- ②8月5半旬までの黄色水盤への有翅虫の累積飛来量は平成に比べて少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

- ①8月末の巡回調査では発生ほ場率は7.7%（平成19.7%）、寄生株率は0.4%（平成4.2%）で平成に比べて少ない。
- ②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①8月末の巡回調査では発生ほ場率は34.2%（平成36.1%）、寄生株率は2.5%（平成8.1%）で平成に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

- ①8月末での巡回調査での発生ほ場率は23.1%（平成8.5%）、寄生株率は2.0%（平成1.0%）で平成に比べて多い。
- ②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で438頭（平成645.5頭）、県西部で617頭（平成993.3頭）と平成に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや抑制的である。

島根県病虫害防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>